

**<質問 1>**

令和 2 年度における、公的資金返済に向けた実績および課題について、総括願いたい。

**<回答 1>**

令和 2 年度におきましても、(1)着実に利益を計上し、(2)内部留保を蓄積しつつ、(3)公的資金返済への道筋として継続的な自己株式取得を実施し、結果として(4)株主還元を維持・向上させることができたと考えております。

(1)につきましては、連結決算における親会社株主に帰属する当期純利益は 451 億円と、前年度からほぼ横ばいの結果となりました。(2)につきましては、(1)の結果として、2019 年度末時点で 3,896 億円であった連結利益剰余金を 2020 年度末には 4,316 億円まで増加させ、内部留保を蓄積しております。また(3)(4)につきましては、2020 年度利益に対する総還元性向を最大 50%とし、適切な自己株式の取得を通じて一株あたり価値の向上を図っております。自己株式取得により、EPS は 6%、BPS は 9%それぞれ増加しました。

しかしながら、現在の株価水準では公的資金を返済するには不十分であり、内部留保を進めると同時に、一株あたり価値の向上や市場からの評価を高める努力を続ける所存です。

**<質問 2>**

令和 3 年度以降における、公的資金返済の目途について、具体的な方策を含め、貴行の見解を説明願いたい。

**<回答 2>**

優先株式で注入して頂いた公的資金は、現在、普通株式に転換されております。そのため、返済原資の確保のみならず、持続可能な独自のビジネスモデルを確立するとともに、適切な資本政策を通じて普通株式の一株あたり価値の向上を図り、株式市場の評価を向上させていくことが、公的資金返済につながると考えております。

中期経営戦略は着実に実践してきておりますが、公的資金の返済に向け、新型コロナウイルス感染症収束後の「新常態」を踏まえ更に取り組みを加速してまいります。具体的には、社会や環境課題の解決を通じてグループの持続的な成長を目指すサステナビリティ経営の強化・高度化、DX の推進による顧客体験や生産性の向上、注力分野である小口ファイナンス及び機関投資家向けビジネスの強化、海外を含むノンオーガニックな成長機会の捕捉や適切な株主還元等を通じた資本の有効活用に取り組んでまいります。

### <質問3>

今総会における、取締役の選任について、どのような過程、判断を経ておこなわれたのか、説明願いたい。

### <回答3>

この1年は、工藤代表取締役社長と小座野取締役の業務執行取締役2名及び社外取締役5名の計7名が取締役の任につき、誠実にその職責を果たしてまいりました。

取締役候補者選考の過程は、従来同様、社長も含めた全員について、これまでの実績をベースに、取締役会への出席や発言の状況なども勘案し、各取締役の意見を確認いたしました。その上で、取締役会全体としての知識・経験・能力のバランス及びジェンダーやジェネレーションを含む多様性や当行の規模を踏まえ候補者の原案を策定し、社外取締役を委員とする指名・報酬委員会で審議の上、最終的に取締役会の総意のもと決定いたしました。

新任取締役候補の平沢 晃氏は、リスク管理、総合企画、法務・コンプライアンスなどの管理セクションを中心とした経験と実績を活かし、当行グループのガバナンス強化に注力するとともに、近時では、組織戦略、人事、総務などを管掌する役員として、生産性改革や働き方改革の企画、推進を通じ、企業価値の向上に貢献しており、業務執行取締役として、工藤社長とともに当行経営陣の中心的な役割を果たしていただけるものと判断いたしました。

また、新任取締役候補の佐々木裕子氏選任にあたっては、複数の候補者の中から、取締役会におけるジェネレーションという観点でのダイバーシティも意識しつつ、これまでの実績等を考慮し、社外取締役などとの面談を踏まえて人選を行いました。佐々木氏は、金融機関、コンサルティング会社及び高齢者向け事業での知識と経験、また現職であるベンチャー企業の経営者としての知見を当行経営に反映していただけるものと判断いたしました。

取締役会では、中期経営戦略の基本戦略として掲げる「価値共創による成長追求」と「ケイパビリティ（組織的能力）強化・活用」に関する具体的戦略と施策や、総還元性向の向上、ノンオーガニックな成長戦略を含めた資本の効率的な活用について、活発かつ建設的な議論を行ってまいりました。今後、当行の持続的な成長を確保し、公的資金返済への道筋をつけていくためには、返済資金の蓄積と同時に、一株あたり価値を高め、さらに将来に向け持続的に利益を創出する当行のビジネスモデルを資本市場に評価してもらうことも重要であると認識しております。今回の取締役候補者は、こうした議論を深化させ、取締役会の実効性を一層高めていくうえで適切なメンバーであると考えております。

候補者選任の過程・判断については以上の通りであります。

以上